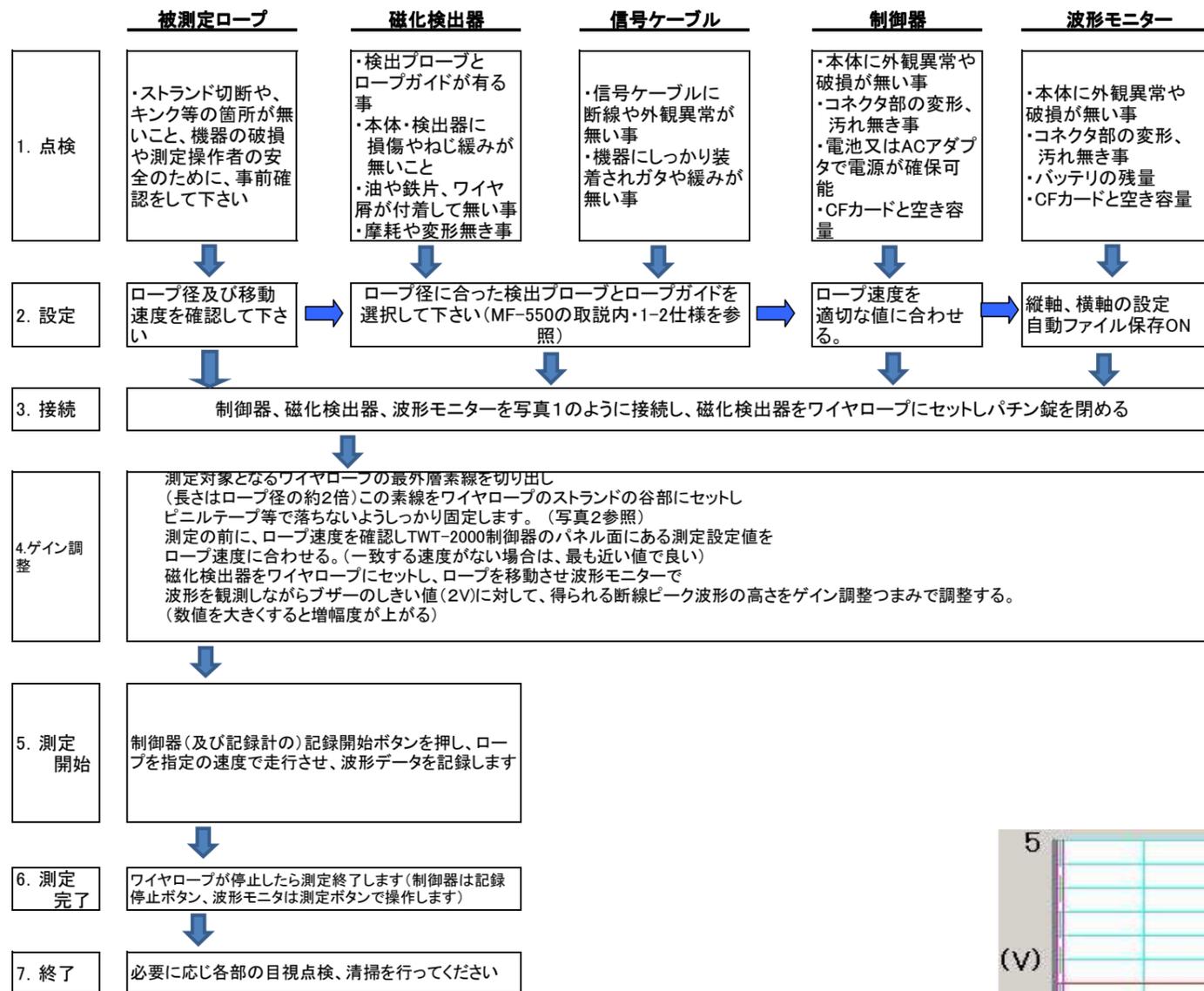


機器のセッティング方法(MF-550/TWT-2000V)



《注意事項》

	測定時、回転体や磁化検出器とワイヤロープの間に挟まれる危険があります。
	磁化器がロープやドラムに巻き込まれる場合があります。測定時に異常を感じた場合、ワイヤロープを緊急停止できるような体制で測定して下さい。
	測定時NGありの場合は再現性を確認の上、目視にて点検し、断線が見当たらない場合は、内部断線の可能性があります。
	測定速度は16m/分~90m/分を標準とし、制御器の設定ダイヤル変更を行います。設定が異なると誤検知の可能性がありますので、 ご注意下さい。
	万一の場合を考慮して、十分に落下防止の処置をとってください。
	キックや曲り癖、断線やストランドの飛び出し等があると、磁化検出器に異常な力がかかり大変危険です。測定前にロープの状態をよく確認してください。
	測定に際し、測定上の注意事項及び機器の取り扱い説明書を必ずお読みください。



写真1. 機器の接続方法

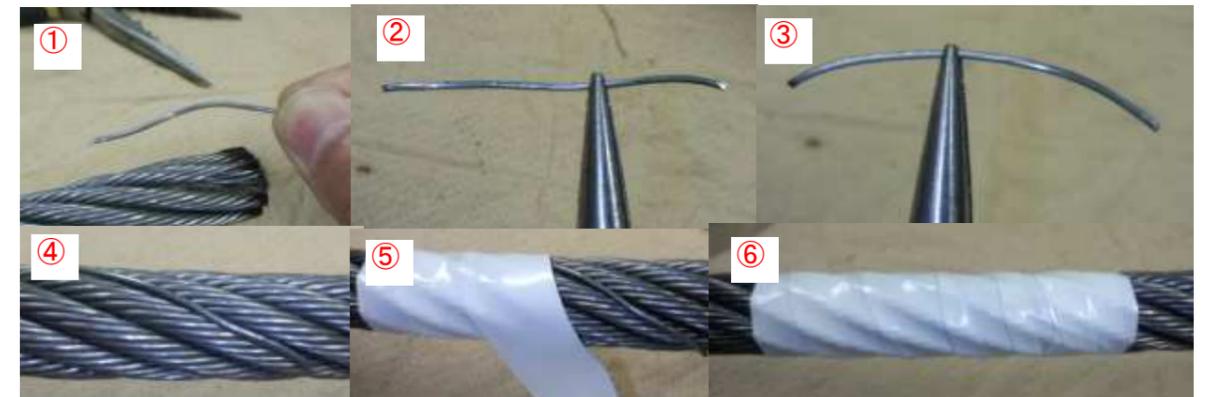


写真2. 模擬断線の切り出しとワイヤロープへの固定方法

- ①ワイヤロープの最外層素線を切り出す(ロープ径の2倍)
- ②切り出した素線の曲がりを直す
- ③ロープ面のRに合わせて曲げる
- ④素線をストランドの谷へセットする
- ⑤ピニルテープで素線を固定しながら巻く
- ⑥素線端部が飛び出さないようにしっかり巻く
模擬断線の端部が深く入り込むと谷切れ断線を模擬する事になるので、素線が細い場合はピニルテープを下巻きしてから模擬断線を表面近くにセットして固定すると良い

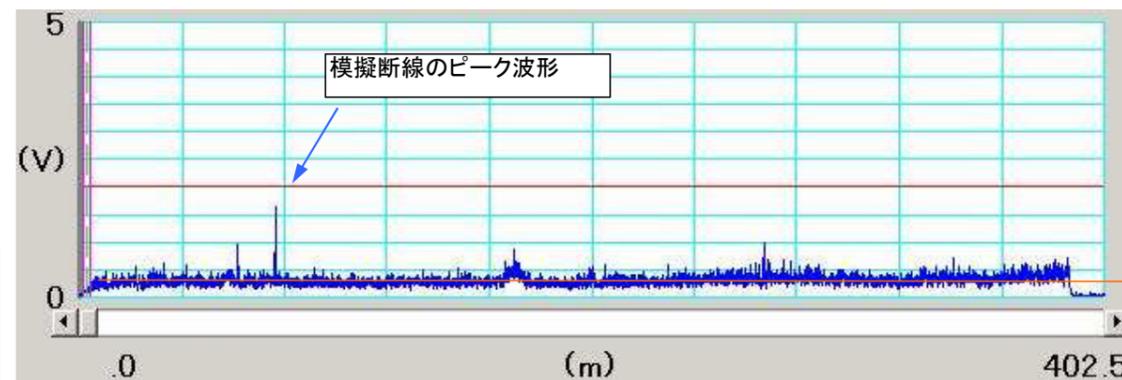


図1. ゲイン調整前の測定波形(ベースラインは約0.25V)

模擬断線ピーク波形でブザーを鳴らしたい場合は、ゲイン調整の数値を現状値よりも増やして、2Vを超えるようにする。

ベースライン0.25V